

平成29年度第1回蕨市総合教育会議 議事録

1. 日 時 平成29年10月25日（水） 午後3時～午後4時15分

2. 会 場 市役所4階 第1委員会室

3. 出席者（敬称略）

市 長：頼高 英雄

教育長：松本 隆男

委 員：加藤 正明、飯野 朗子、小島 奈津子

事務局：【市長部局】川崎 文也（理事）、佐藤 慎也（総務部長）、根津 賢治（総務部次長政策企画室長）、田熊 純也（政策企画室長補佐）、白井 敦（政策企画室主事）

【教育部局】須崎 充代（教育部長）、渡部 幸代（教育部次長教育総務課長）、杉田 勝弘（教育部次長学校教育課長）、松永 祐希（生涯学習スポーツ課長）、山口 浩（学校教育課主幹）、荒川 順一（学校教育課主幹）、野田 智之（生涯学習スポーツ課長補佐）、渡邊 浩介（教育総務課庶務係長）、咲間 悟（学校教育課学校保健係長）、藤橋 篤（生涯学習スポーツ課生涯学習振興係長）、桑島 勝彦（生涯学習スポーツ課青少年係長）、近藤 大志（学校教育課指導主事）

4. 内 容

1 開会

【佐藤総務部長】

それでは、定刻となりましたので、始めさせていただきます。

ただいまから、「平成29年度第1回蕨市総合教育会議」を開会いたします。

私は、本日の会議の進行を務めさせていただきます、総務部長の佐藤でございます。よろしくお願いいたします。

はじめに、会議の開会にあたりまして、ご確認をさせていただきます。

この総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4の規定に基づき、市長と教育委員会を構成員とする会議であり、市長が招集するものとなっております。会議は、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有することで、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的としておりますので、よろしくお願いいたします。

なお、本日、萩原委員におかれましては、所用のため、欠席でございます。

2 あいさつ

【佐藤総務部長】

それでは、ここで、頼高市長から、ごあいさつをお願いいたします。

【頼高市長】

市長の頼高英雄でございます。本日は、平成29年度第1回蕨市総合教育会議を開催いたしましたところ、委員の皆さまには、大変お忙しいなかご参加いただきましてありがとうございます。また、日頃から蕨の教育行政の推進、そして子どもの健やかな成長に向けご尽力いただき感謝申し上げたいと思います。

私は、日頃からまちのなかで子どもたちの元気な声を聞くことができるのは本当に良いことだと感じております。蕨市では、10月の第1週の土曜日・日曜日に秋のお祭りが行われまして、市内各地で子どもたちの元気な声を含めて、神輿が繰りだされて、とても賑やかな2日間となりました。お祭りは各地域・町会ごとに色々なスタイルがありますが、比較的子どもたちを主体としたお祭りが多いです。先日、塚越の稲荷神社で塚越の各町会の子もたちと神輿が集まり、それぞれの町内に向けて担いでいく姿を見て、子どもたちが健やかに育つまちを皆さんとつくっていきたいと気持ちを新たにしたところでございます。

さて、この総合教育会議は、先ほどの話にもあったように「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正に伴い、一昨年の4月に初めての会議を開催し、今年で3年目に入りました。

一昨年の第1回目の会議においては、教育大綱を定めるという大きな議題がありました。教育振興基本計画をもって教育大綱にするといったことを中心に議論いただき、決定した教育大綱に基づき、教育行政が進められております。

昨年の総合教育会議では、子どもたちの教育は幅広いですが、そのなかでも重要な課題の一つである「子どもたちの学力について」を議題として、学力・学習状況の調査の結果などの資料を踏まえながら、取組状況・蕨市の成果等の議論をしていただいて、全体としては、子どもたちの学力という点でも、学校・地域の連携のもとに、成果を上げていることが確認でき、非常に良かったと思っております。

本日は、もう一つの大事な課題である「子どもたちの体力について」を議題として、取組の状況や課題などについて、皆さんからご意見をいただきたいと思っております。知・徳・体のバランスのとれた子どもたちの成長ということをよく言っておりますが、その「体」の部分に関わる部分となります。健全な精神は健全な体に宿るという話もありますけれど、それが子どもたちの成長の土台となると思っておりますので、ぜひ忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

蕨の教育行政の全体としては、蕨市の教育行政の特徴である小学校6年生までの35人程度学級の推進、学校土曜塾の実施、地域の皆さまの協力をいただいている放課後子ども教室など色々な形での取組を通じて、子どもたちの健やかな成長においても成果を上げていると思います。

教育センターを昨年整備してスクールソーシャルワーカーを配置し、今年は、さらにその役割を充実させるために、統括相談員を新たに配置し、相談体制の充実を図っています。それに加えて、外国籍の子どもたちの増加を受け、日本語教育支援員を市として初めて独自に配置させていただきました。

学校に通うだけでなく、初期には教育センターの日本語特別支援教室に通うことでスムーズに学校に入れる取組を進めている状況であります。

教育環境の整備の点では、毎年各学校のトイレの改修を順次進めています。また、東小では、県の補助金を使って、校庭の一部を芝生化し、子どもたちもそこで元気に遊んでおります。芝生は維持管理が大変でありますけれども、県の補助金を活用して、維持管理に必要な機械などを購入し、ひがし委員会という職員と地域の皆さま、PTAの方が中心となって維持管理をするといったことも進めております。

こうした教育行政について、これからも総合教育会議でいただいたご意見等を踏まえながら、教育委員会、市長をはじめとする市長部局、そして市民連携のもとに、充実した教育行政を進めていきますので、よろしくお願いを申し上げます。

今日は、どうぞよろしくお願ひいたします。

3 議題

【佐藤総務部長】

ありがとうございました。それでは、要領第3条の規定に基づきまして、ここからの会議の議長を、頼高市長にお願いさせていただきます。頼高市長、よろしくお願ひいたします。

(1) 子どもたちの体力向上について

【頼高市長】

それでは、議事に入らせていただきたいと思います。次第の(1)子どもたちの体力向上について議題とします。お手元の資料「蕨市の児童生徒の体力の現状と体力向上の取組」についてをご覧いただきながら、事務局から説明をお願いします。

【杉田次長】

今、変化の激しい社会を生きるために、子どもたちに確かな学力、豊かな人間性、健康、体力の知・徳・体をバランスよく育てることが大切です。蕨市教育委員会としても学校や地域で生きる力を育むためにも様々な取組をしてきました。

学力については、平成26年度全国学力・学習状況調査において埼玉県内でトップでした。これまでの総合教育会議のなかで学力について説明してきましたが、今回は生きる力を育む3本柱のなかの体力について説明させていただきます。

蕨市の体力については、新体力テストの結果で、埼玉県内ではトップレベルです。今年度を含めて3年間は、埼玉県南部管内で総合1位となっています。そこで、教育委員会や学校の取組を説明し、市長、教育委員の皆さんに蕨市の小・中学生がたくましく生き、さらに蕨市の未来を担う教育の推進に向けてご意見お願いいたします。

それでは、資料にそって説明させていただきます。

まず、資料をご覧ください。

毎年、全国の小・中学校で新体力テストが実施されています。この結果は、国や県において、子どもの体力の状況を把握するとともに、子どもの体力向上のための取組の成果を評価することにも活用されています。本市におきましても、この結果を重視し、向上に向けて次の取組を行ってきました。

児童・生徒の力を十分発揮できる手立ての工夫、適切な測定方法の確認、県作成の資料の配付と活用の依頼、これらについて、校長会や体力向上推進委員会、体育主任会、養護部会、保健主事部会等で資料を配布し、体力の改善点や課題等について具体的な方策を示してきました。

また、新体力テストの数値だけに捉われることなく、児童・生徒が主体的に運動する授業の実践や体育的活動の充実等が重要であると考え、学校訪問、実技伝達研修会、校内研修指導等の際や体育授業充実に向けて、教諭に具体的な指導を行うことで、学習規律を確立させ、力いっぱい運動し、思いっきり汗をかく体育授業を実践し、運動好きな児童・生徒を育てていけるよう取り組んでいます。

続きまして、体力向上推進事業についてです。こちらは、市内小・中学校の児童・生徒の体力の実態を把握し、実情に適した体力向上の推進を図ることを目的とし、蕨市小・中学校児童生徒体力向上推進委員会を設置し、事業を行っています。重点目標については資料に示した1から6までの6点です。蕨市では小学校において重点推進校を指定し、授業力の向上を図ることで子どもたちの体力の向上を目指しているものです。現在は、中央東小学校が推進校となり、

体力及び体育授業の改善を行っています。今年は、11月8日に研究授業を実施し、市内の先生が見に来て、各学校での実践を目指し、市内の学校が体力の向上にあたるように実施しています。この推進校については、過去2年は北小学校、平成30年度からは塚越小学校で実施し、すべての小学校で取り組めるようにしています。蕨市内のこういったことが認められ、平成29年度・30年度は、埼玉県体力課題解決研究指定校として位置付けられ、来年度は埼玉県で発表する予定です。

別冊の資料1をご覧ください。

こちらについては、各学校の体力向上推進委員を任命し、毎年の課題をあげ、実際に学校でどんなことが各学校で取り組むことができるだろうかということをもとにまとめ、各学校だけでなく、市全体の財産として活用できるようにしています。

たとえば、東小学校の4の(1)の③の課外活動「東チャレンジ」を実施し、年間54回放課後を活用し、色々な種目の技能向上を目指しています。

また、次ページの西小学校の業間運動では、2時間目と3時間目の間の20分間の休み時間を体力向上の取組に活用しています。特に、投力を課題と考え、投力向上をねらった活動を行っています。

そのほかにも南小学校では4の(2)の②「全身持久力」の向上をねらい週2回放課後マラソンの継続した取組をしています。また、③の体育設備を利用した色々な体育事業の取組を行っています。

1番後ろから6枚戻ったページの真ん中に(6)保護者への啓発というところがあります。体力向上は授業で成果を上げますが、それだけでなく家庭との協力が必要になります。運動のポイントを保護者にも伝え、各家庭でもできることの啓発活動をしています。こういった形で各学校や各個人にとどまらず、蕨市全体の体力向上につながるよう冊子を作っています。

「蕨市の児童生徒の体力の現状と体力向上の取組」の資料に戻り、3つ目の本市の小・中学校における体力向上の取組について説明します。

蕨市の小・中学校における体力向上の取組は、授業だけでなく、それ以外にも様々な活動をしています。たとえば、小学校にある業前、業間、業後の活動があります。その他にも体育朝会を実施しています。また、教職員に対する実技研修・指導方法の研修等も行っています。

その他の行事として、徒歩遠足、球技大会、リレー大会、縄跳び大会、持久走大会、器械運動検定、水泳大会など、子どもたちが運動を楽しく、興味が湧くような形で取組を行っています。さらに近年、色々なスポーツについて企業からこういった取組はどうかと依頼があります。蕨市も積極的に手を挙げて実施しています。たとえば、タグラグビー教室、浦和レッズのハートフルクラブ

サッカー教室、JFAキッズプログラム、ヤクルトスワローズと協力した投力教室などで指導を受けながら体力向上を図っています。

小学校体育連盟の行事としてともに実施している、実技伝達講習、5年生のミニバスケットボール親善大会・6年生のサッカー親善大会をし、体力向上を図っています。中学校におきましては、長距離走大会、球技大会、スキー教室、部活動の指導力の充実を行っています。

続きまして、資料の2-1をご覧ください。

この資料は、平成28年度の時点で埼玉県が全国のどこに位置するかを表にしたものです。

調査の対象は小学校5年生・中学校2年生の男女です。体力合計点とは、新体力テストで実施する各項目をスポーツ庁が示す基準にそって年齢、性別、項目別の記録に応じて点数化しているものです。

続いて、資料2-2をご覧ください。

新体力テストの項目の成績を年齢・性別ごとに項目別得点表に当てはめて点数化し、総合評価をA~E段階に当てはめて総合評価したものです。

埼玉県においてはA・B・Cの体力が高い児童・生徒が小学校80%以上、中学校85%以上にもっていきたいという目標を示しています。現在、埼玉県の小学校は82.2%、中学校は85.5%ですが、蕨市は目標に向けて、取り組んできて、83.8%、中学校89.7%と大きく県と全国を上回ることができました。平成29年度の方は集計しているところですが、蕨市はさらに上回る結果になりそうな状況ですので、着実に蕨市の小・中学生の体力が向上しています。

続きまして、蕨市の中学校の運動部活動の大会結果等について説明します。今年度の新人体育大会においてはこれから県大会が行われます。本市の児童・生徒の体力向上の結果は、大会の結果に結びついており、ここ数年団体、個人種目ともに県大会への出場が増えています。

最後に、これまでの成果と課題について説明します。

本市では、児童・生徒の体力向上に向けた様々な取組を行ってきた結果、近年、埼玉県において上位に位置しており、取組の成果が数値として現れていると考えています。しかし、各学校や一人ひとりに目を向けると、運動する子とそうでない子の二極化の傾向や子どもたちの持つ体力課題に違いがあることがわかりました。

全ての児童・生徒に体を動かす楽しさ、心地よさを味わわせること、健康や体力の状態に応じて体力を高める必要性を認識させたいと、より一層の体力の向上を図ることが必要と考えています。そのためにも、これまで進めてきた各校での効果的な取組を工夫したり、新たな取組を検討したりすることで、体

力向上への取組をさらに充実していくために引き続き研究していきたいと考えています。

【松永課長】

生涯学習スポーツ課は、子どもから高齢者までの生涯学習スポーツの推進を図っておりますが、子どもたちを対象としたスポーツについて報告いたします。

まず、青少年係が担当している蕨市子ども会育成連合会主催事業の2事業のうち①スポーツ中央親善大会についてです。こちらの協議内容は、ソフトボール・フットベースボールの2種目となっています。毎年9月に開催されており、ソフトボールは第53回、フットベースボールは第47回を迎えました。今年度はソフトボール5チーム84名、フットベースボールは4チーム53名が参加しました。

②のドッジボール大会は、毎年11月に実施しており今年度で16回目を迎えます。小学4～6年生を高学年の部、小学1～3年生を低学年の部とし、平成28年度は高学年11チーム172名、低学年15チーム233名が参加しました。高学年の優勝チームは年明けの1～2月に行われる、県大会に出場しました。

次に、スポーツ推進係が担当している蕨市体育協会主催事業の2事業のうち①の市民水泳大会についてです。こちらは毎年8月に実施しており、今年度で第55回を迎えました。対象は小学生から一般で、平成29年度は参加者99名のうち小・中学生89名となっています。②の市民ロードレース大会については、毎年12月に実施し第57回目を迎えます。対象は小学生から一般で平成28年度は、参加者785名の内、親子の部で参加した小学生1・2年生とその他の小・中学生を合わせて500名以上の子どもたちが参加しました。

日頃から、子どもたちが練習を積んでいるスポーツの成果を発揮できる、これら4つの事業は子どもたちの体力の向上につながるものと考えており、今後も継続していきたいと考えております。

【頼高市長】

それでは、ただいまの説明について、皆さんよりご意見・ご質問をお願いします。

【飯野委員】

とても良い状況でうれしいことと感じていますが、体力や運動能力はそれだけでは役に立たないと思います。それが危険を回避するなど実生活に反映されていかないと意味がないと思います。そのためには体育の時間、学校の中だけ

での体の使い方だけでなく、一歩進んで、実生活で腰を痛めない体の使い方やつまずかない歩き方も必要になると思います。また、平らなところで使う筋肉・神経と砂や砂利の上を歩く筋肉・神経は違うところを使います。体力テストの数値は整備された数値になるので、その数字が良いから全部良いということではないと考えられます。

先ほどの東小の芝生など、でこぼこしているところで運動するのも意味があるのかなと思います。体力を維持するのにプラスして実生活で生かすことを進めていくのもいいと考えられますので、指導する側がそういう意識をもって進めていくのが大事だと思います。また、学校だけでなく、市民の体育祭・運動会や介護予防のところにつながっていくと考えられることから、先端にいる蕨市は、もう一步の先を見据えながらいくといいと思います。

【頼高市長】

ありがとうございました。実生活の関係という話もありましたが、今のご意見について何かありますか。

【杉田次長】

体力と健康は一致しないといけないと感じています。また、小・中学校で培われた運動に対する思いによって、将来、大人になっても運動を続けることができ、健康でいられる体が作れるのかなと思います。

これから、健康に結びつけるため、運動することの楽しさや喜びを味わわせるような取組を学校でしていくことで、健康な子どもになっていくと思います。

【頼高市長】

引き続き、いかがでしょうか。

【加藤委員】

ここ数年、学校訪問に同行し、授業を見ていますが、そのなかで先生方が一丸となって、同じ目標に向かって授業の展開をしていると感じる場面が多くあります。そういうことがあって学力・体力向上につながっている感じがしています。教育委員会の計らいがあり、各学校がそちらに目を向けるようになっていると思います。そういう点でも、この総合教育会議の情報交換は役立っていると思われるので、それだけで満足ではなく、この先どうするかという見方をしながら学校の取組の応援をしていきたいと思います。また、各学校を見ていて、子どもたちと学校の先生の関係が素晴らしいと感じています。授業規律がよくできている点は子どもにとっても幸せなことだと思います。

【頼高市長】

ありがとうございました。引き続き、いかがでしょうか。

【小島委員】

様々な取組をしていることがよくわかりました。ずっと取組を維持・継続していくことが蕨市の体力向上につながっていると思いますが、主に何が一番向上していった要因になったのかを教えていただきたいと思います。

【咲間係長】

新体力テストの捉え方について、毎年やらなくてはいけないものではなく、子どもたちが伸びを感じられるものであることを教職員一人ひとりが意識し、子どもたちが伸びることに対してやりがいを感じたり、達成感・充実感を味わわせたりするために、力の発揮の仕方、正しい計測の仕方を伝えて、毎年実施するなかで、子どもたちが伸びを感じ、やりがいを得るようにしています。体育好き・運動好きを授業でつくることに対する、教職員全体の意識が変わってきたと思います。校長先生にもその重要さ・大切さを十分認識していただいているし、教育長も体力の向上は大切なことと校長会でも伝えているので、その成果も上がってきていると思います。何が一番かということと教員の意識が変わったことが一番の要因ではないかと思います。

【杉田次長】

体力向上のためには教職員の指導力が大切だと考えており、蕨市の教職員の指導力が着実に上がっていると思います。また、教育委員会としてもさらなる指導力アップに向けて進めていきたいと思っています。

【小島委員】

子どもたちは、これができるようになったという達成感や先生に褒められたということがあったことで、次も頑張ろうという気持ちとなり、体力向上の結果につながってきたと思います。一方で、安全面が重視されて、持久走大会が校内を走る記録会のようになっている学校もあると聞いたことがあります。順位がつくことや校舎の周りを走り、保護者や地域の方の応援があることは子どもたちにとってうれしいことでもあると思いますので、子どもたちの意欲や達成感をアップさせるような楽しい取組を兼ね備えていただけると良いと考えています。

【頼高市長】

各小学校の持久走大会の現状はどうなっていますか。

【杉田次長】

基本的には学校の周りを走ることになっていますが、区画整理など小学校の周りの状況により、校内を走るということもあります。保護者の応援も子どもたちの力になるので、そういったことも学校には伝えていきたいと思います。

【頼高市長】

数字で見ると体力が上がってきていること、また、全国・県と比較しても良い数値となっていることは、教職員の努力によるものだと思います。

感想として、子どもたちの各家庭、まちの環境により、体を動かす機会は減っているだろうと感じているので、学校の役割は大きくなっていると思います。家ではなく、学校で体を動かして体力を向上させているので、そういう点では先生方は大変だと思います。

体力向上の取組は先生と生徒のスキンシップとしての面もあるので、忙しいと思うが前向きに捉え、引き続き取り組んでいただきたいと思います。

昔に比べ、持久走など行事も多くなってきています。その上で、先ほど保護者への啓発という取組が紹介されていましたが、その取組が、家庭でも子どもたちが、体を動かすことへのアプローチになってくると思います。

また、食育も重要になると思いますが、意識した取組についてはどうでしょうか。

【咲間係長】

食育に特化してではなく、健康教育として養護教諭を中心に取り組んでいます。なかでも塚越小学校が、食育に力を入れており、県で発表をしています。また、中央東小学校の家庭向けプリントに健康な生活についての話を入れているなど、市内各校で食育に取り組んでおりますが、市内共通での取組はありません。

【頼高市長】

子どもたちは家に帰ってからの体を動かす時間は以前より減っていると思います。また、体力には個人差があると思いますが、運動の苦手な子どもたちへのアプローチはありますか。

【咲間係長】

運動が苦手な子は、苦手な子のなかでの伸びを感じさせることが重要と捉えています。たとえば、指導法研修会・体育実技伝達講習会では、小学校全教職員の約半数が参加し、指導技術や評価・褒める部分も学んでいます。技能が高い子どもの評価が単に高いのではなく、技能の低い子どももその伸びを見るところも研修で学んでいます。

【頼高市長】

その他、何かありますか。

【松本教育長】

地域性があって、少しずつ蕨が都市型の市になり、空いているスペースがない状況になってきています。木に登る、川で遊ぶなど自分で体力づくりをしていた時代と違い、一番体力を伸ばせる場所は学校となっていると感じています。学校で体力を伸ばすためには、教員が変わらなければ子どもの体力・学力向上にはならないと考えておりますので、その点を重点的に指導したことが、成果につながっていると思います。また、子どもがいろんな部分で伸びていけば、保護者も喜ぶし、市の子どもたちが良くなると市全体の状況も良くなっていくと思います。

今後も、体力だけでなく、色々な部分で子どもたちを伸ばす取組を進めていきたいと考えています。また、給食も残飯が減っている状況にあり、体を動かしていることがここにもつながっていると思います。

【頼高市長】

資料にドッジボールの県大会の話がありましたが、結果はどうでしょうか。

【松永課長】

平成28年度は初戦敗退でしたが、敗退したチームのなかでは成績は良かったと報告をいただいています。錦町支部に公式の審判員の資格を持つ方がおり、錦町支部に限らず市内で指導していただいているので、全体としてのレベルが上がっていると思います。

【頼高市長】

ロードレースの親子の部の参加者が奇数になっているが理由はありますか。

【野田課長補佐】

父親が当日やむを得ず参加できず、低学年の子どもを1人で残すことができないという事情を配慮し、参加を認めて母親が子ども2人と走ったケースが1件ありました。

【頼高市長】

中学校の部活で、種目として成立が難しくなっているものはありますか。

【咲間係長】

柔道部の人数が少なく、団体戦への参加が難しくなっていますが、種目が成り立たないものはありません。なお、出場が難しい場合は合同チームの規定もありますが、現状はそういったこともありません。

【頼高市長】

第二中学校の男子バレー部は活動していますか。

【咲間係長】

第二中学校の男子バレー部は、新入部員が一人しか入らない年があり、成立しなくなる段階で検討され、廃部となっています。その他についても部活の統廃合については、現在あるものについては、成立できていますが、今後、各校の事情により検討に入ることもあり得ると思います。

【頼高市長】

野球は地域のシニアチームが盛んでそこに入る生徒も増えていると聞いたことがあります。そういった生徒は野球部に入れませんが影響はありますか。

【咲間係長】

基本的には中学校は原則全生徒部活動加入としています。他のサッカーや野球のクラブチームに入った生徒についてはどこに入るか難しいということもありますが、そういった生徒は他の運動部に入るケースが多いです。

(2) その他について

【頼高市長】

次に議題の(2) その他について、事務局から何かありますか。

【事務局】

2点ほどご報告したいと思います。資料は、その他資料1、その他資料2を用意しております。まず、学力向上への取組についてご報告させていただき、意見交換の後、蕨市民音楽祭についてご報告したいと思います。

【杉田次長】

学力向上に関する取組について報告します。

全国・埼玉県の実力学習状況調査結果により蕨市は高い学力に位置していることがわかりました。この高い学力を維持するために、市独自の6年生までの35人程度学級、各支援員・ALTの配置、各学校の研究など様々な事業に取り組んだ結果が出ていると考えています。

学力向上は、教職員の資質向上、指導力向上なくしてはないと考えています。そのために、学校訪問を重要視しておりますので、学校訪問について報告します。学校訪問は、蕨市教育委員会が埼玉県教育委員会とともに実施しています。

資料の1にありますように、教育委員、指導主事等が各学校の授業等の教育活動の参観を通して蕨市全体の教職員の指導力の向上を図るものです。

訪問形態の流れは資料のとおりですが、授業については、訪問を受ける学校の全ての教員が毎年研究授業と公開授業を行う形で受けています。

また、学校訪問を充実するために、授業をする前にどんな計画で子どもたちにどのような力をつけるのか学習指導案を指導主事がチェックする事前指導を行っています。

さらに、蕨市独自採用の市費教員、臨時教員など若手の教員の指導力アップが子どもたちの学力向上につながると考えており、若手教員・臨時教員が他の学校に出向いて参観し、授業を見て自分の指導力向上につなげる取組をしています。

中学校の取組としては、音楽・技術・家庭科などの一人科目の市内の教諭が互いに参観し、生徒がしっかりと学べるようにする取組を始めました。それについては、県下において蕨市の取組を紹介したところ問い合わせも多数いただいております。

また、研究協議についても、講義ではなくアクティブラーニングを取り入れた協議を行っており、こうした形で指導方法の課題や解決策について参加する教員の一人ひとりの考えが活かされ、活発な協議となるように展開しています。こういった協議も充実をさらに図り、蕨市の子どもたちの学力向上を目指し、学校訪問をはじめとして各事業を継続するとともに検証を行いながら子どもたちの学力向上に努めていきたいと考えています。

【頼高市長】

それでは、ただいまの説明について、皆さんよりご意見・ご質問をお願いします。

【飯野委員】

昨日も小学校の訪問をしてきました。教育委員会は資料の文字と数値ばかりを見ることが多くなりますが、現場を見ると具体的な要望、課題が肌に触れてわかります。委員会と現場がかい離しないためにも学校訪問は必要だと思いますので、これからも訪問を続けていきたいと思います。

小学校で行われている授業がアクティブラーニングそのものを感じました。子どもたちが参加できる授業を作り上げており、先生の高い指導力を感じることができました。教職員のワークショップ型の分科会を見てきましたが、先生が実際にアクティブラーニングをしているので、目的とポイント・運び方がわかり授業に反映されていると感じました。これから成果として出てくるのが楽しみに思っています。

【頼高市長】

ありがとうございました。次は、市民音楽祭について事務局から説明をお願いします。

【生涯学習スポーツ課】

第3回市民音楽祭について報告します。

市民音楽祭は、蕨市の芸術文化の振興と推進、音楽によりまちの魅力を発信することで賑わいの創出と蕨のイメージアップを図る「蕨市音楽によるまちづくり推進事業」の中心的な事業となっております。第3回は平成29年11月11日・12日の2日間での開催を予定しており、文化ホールくるるや市民体育館などの公共施設をはじめ、蕨駅西口ロータリー、市内飲食店、事業所等の各所でクラシックやジャズのほか吹奏楽、軽音楽など様々なジャンルの音楽を市民が一日中楽しめるようにします。

また、蕨市と連携協定を締結している河鍋暁斎記念美術館が所蔵の17メートル×4メートルの引幕を蕨駅前に掲出するほか、坂田明氏と智内威雄氏のコンサートでは河鍋暁斎が挿絵にしたイソップ物語をモチーフにした楽曲を披露する予定です。当日の出演者は約400名で、市内外多くの方にお越しいただき楽しんでもらえるイベントにしたいと考えています。

【頼高市長】

それでは、ただいまの説明について、皆さんよりご意見・ご質問をお願いします。

【頼高市長】

蕨市民音楽祭については、市民の方だけでなく市外にも蕨市は音楽によるまちづくりをしていることの情報発信が必要だと思うが状況はいかがでしょうか。

【松永課長】

蕨市はホームページで発信しており、随時更新しているところです。また市民の方に協力いただき SNS を通じての発信や実行委員の方から知人へ発信するなどの協力をいただいています。

【頼高市長】

小さな市で2日間様々なジャンルの音楽を楽しめるという蕨市の音楽祭の特徴などから関心をもってもらいたいです。

それから、皆さまもマスコミ報道等でご覧になっていると思いますが、福井県の池田町で中学生が教職員の厳しい指導で精神的に追い詰められて自殺をしたという報道がされています。詳細はわかりませんが、町の教育委員会もそこに原因があったと公表されており、非常にいたましいことと感じています。この件について、蕨市の教育委員会・学校としてはどう受け止めていて、どういう取組をしているかを伺いたいと思います。

【杉田次長】

この件は、同じ教育に携わるものとして、非常に残念であり、またあってはいけないこととして重く受け止めなければいけないことと感じています。

先日、埼玉県で教職員の不祥事根絶等について、臨時校長会が実施されました。その校長会の後、各学校の教職員に対しての指導を行いました。

蕨市では、不祥事防止に向け、定例校長会で毎月繰り返し指導をしているのに加え、教職員と関わりの多い教頭については、今年度は毎学期市独自の研修をし、不祥事防止のための指導を図っています。

また、教育委員会としては、学校訪問を通して、全教職員の指導・授業観察を念入りに行うことで、教員、児童・生徒との信頼関係の構築を図れるよう指導しています。そういった指導の成果もあって、教員の威圧的な指導は行われていません。現状に安心することなく、特にコンプライアンス意識の向上、風通しのよい職場づくり、教職員の協力体制の整備の3点を市教育委員会と学校

でしっかり行っていきたいと考えています。

【頼高市長】

その他、全体を通して、何かありますか。

【一同】

特になし

【頼高市長】

その他、事務局から何かありますか。

【事務局】

次回の会議テーマと日程の提案でございますが、「平成30年度教育事業の概要（案）」を主な議題として、平成30年2月頃に開催することを提案させていただきますがいかがでしょうか。

【頼高市長】

ただいま、事務局から次回会議の開催時期、議題等について提案がありましたが、皆さん、よろしいでしょうか。

【一同】

異議なし

【頼高市長】

それでは、そのように決定させていただきます。

その他、事務局からは何かありますか。

【事務局】

最後に、本日の会議録につきましては、事務局で作成した後、皆様にご確認をさせていただき、要領第6条の規定により、公開をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

4 閉会

【佐藤総務部長】

ありがとうございました。それでは、本日の会議はこれで全て終了いたしましたので、閉会とさせていただきます。